



2018年3月31日 チーム神於山 活動報告

■活動日：2018年3月31日（土） 10：00～15：00

■参加者：チーム神於山 正会員 11名

■活動内容

- ・今回は、フクロウの営巣確認、ミカンの木への水遣り、竹林の竹フェンスへのイノシシ除けの犬の毛の取り付け、竹の吊り下げ搬出ルート探しに取り組み、ほぼ目標を達成しました。
- ・中でもフクロウは、24日に、連続営巣している木に架けた巣箱での営巣を確認しましたが、今回は、至近距離に架けた巣箱でも営巣を確認しました。これで2年連続至近距離でのダブル営巣です。
- ・バードレスキュー協会の村濱さんの話では、フクロウに限らず、鳥類には一般的に前年繁殖に成功した巣があれば引続き利用する傾向にあるとのことですから、珍しいことでは無さそうですが、至近距離の巣箱でそれが起きていることは、とても珍しい事例であるようです。
- ・ミカンの木への水遣りは、今回も持寄った水で足りましたから、暗渠のドラム缶の雨水など仮設の雨水だまりで集めた水は貯水槽に入れました。
- ・結果、基地回りの貯水と合わせると現在は500ℓ程度の貯水がありますが、何時までも水を持ち寄ることは難しいので、早急に雨水を収集する仕組みを完成する必要があります。

■今後の活動について

- ・ここ暫くは、フクロウの営巣状況の確認と、ミカンの木への水遣りがルーチンワークです。
- ・別途岡森さんから、それぞれの活動への参加を確認しますのでご協力をお願いします。

■フクロウの営巣確認

今年も20mという至近距離に、ダブルで営巣しました。



左が5年連続営巣している木に架けた巣箱。右が、昨年から営巣が始まった巣箱。間隔は約20mです。

- ・約20mという至近距離でのダブル営巣の始まりは、フクロウは、横穴式と上穴式のどちらの巣箱を好むか？という素朴な興味からでした。
- ・2016年に、2014年から連続営巣している左の木に横穴式、そこから約20m程離れた右の木に上穴式の巣箱を架けましたが、結果は、上穴式は選ばれず、連続営巣している左の横穴式に営巣しました。
- ・そこで、2017年に両方横穴式にしたところ、両方に営巣するという予想もしないことが起きました。
- ・猛禽類のフクロウにしてみれば、狩猟のコンペティターと隣接して営巣するのはかなりストレスが有るはずですから、今年は、バードレスキュー協会の村濱さんからの勧めもあり、新たに基地そばと、竹林そばの2ヶ所に別の横穴式の巣箱を追加で架設したのですが、昨年と同じく上の写真の二つの巣箱に営巣するという結果になりました。
- ・今年のダブル営巣が、前年繁殖に成功した巣があれば引続き利用するという一般的な傾向に拠るためか、カラスなどの外敵に対抗する為か、それとも血縁関係を含め、他に理由が有るのか、興味は増すばかりですが、今は、何より卵が孵化し、雛が元気に育って巣立ちすることを願うばかりです。

■ミカンの木の水遣り

今後、5月から夏場いっぱい、2週間に一回欠かせない作業になります。



一本あたり 20ℓ 水を遣ります。今回も持寄り分ではほぼ賅えました。



暗渠から揚水したホースの中の水も、無駄なく貯水槽に入れました。ほぼ 400ℓ 貯水できています。

■水を遣り終えてほっと一息

フクロウのダブル栄養も確認できたし、神於山は春爛漫です。



2007年に植樹したSFC創業50周年記念樹の満開のシダレザクラの下で。

■竹林の竹フェンスにイノシシ除けの犬の毛の取り付け。 昨年かなり効果があることを確認済みです。



午後の部で、取り付けを担当頂いた皆さん。お疲れ様でした。

■竹の吊り下げ搬出ルート探し。 角度は約 65 度。距離約 30m。先ず滑車とトラロープで実験します。

上から見たライン



下から見たライン

- 竹林と神於山シャープの森は、20~30mほど高低差があります。
- 今迄は伐採した竹を、人力で担いで上がっていましたが、長続き出来る方法ではないので、ロープと滑車で釣り上げる方向で、最短で、比較的障害物の無いルートを探しました。
- その結果、一つルートを見つけたので、取り敢えず目印に包装用の紐を張りました。
- 本来吊り上げは、ワイヤーロープを張り、それに滑車かけて引き上げるのですが、次回、実際に引き上げられるかどうかトラロープで試してみるつもりです。